

プロジェクト名 | 平常時は家計を守り、災害時は人命を守る「フェーズフリー住宅」先導モデル

レジリエンス措置の内容
＜想定するリスク（課題） およびその背景・必要性＞ 「巨大地震」×「激甚化する豪雨」×「新興感染症（パンデミック）」×「エネルギーコスト上昇」の複合リスク 【社会的背景】大規模災害時における「指定避難所」の限界とリスク 【複合有事の課題】感染症発生時に長期化する「自宅療養・在宅隔離」への確実な対応 【住宅の必要性】大規模災害リスクは上昇、エネルギーコストも上がり、住宅での対応が必要となる時代
＜提案・解決策＞ 【平常時】 エネルギーコストを抑え、健康でスマートな暮らし 健康と省エネ：高性能換気・空気清浄システムが、花粉やウイルスを除去した空気を24時間循環。エアコンの使用控えによる熱中症やヒートショックを防止。井戸水を生活用水として活用し、太陽光発電と蓄電池で自給電力として賄えるため、大幅な水道光熱費を抑えることが可能になります。 【発災時】 繰り返す地震や暴風雨から、家族の命とインフラを無傷で守る 圧倒的な構造強度：実物大倒壊実験で強さが証明されたAQダイナミック構法を採用。激甚災害の瞬間においても建物の倒壊・損傷を完全に防ぎます。 【発災直後】 インフラ途絶下でも家庭内感染を防ぎ、自宅をシェルターに！ 停電・断水時も蓄電池と防災井戸により電気と水を完全自給し、安全な在宅避難を継続。24時間ノンストップ換気により、窓を開けられない完全密閉時でも家庭内クラスター（二次感染）を物理的に遮断することができる。近隣地域への避難スペースも提供可能に。 【復旧・回復期】 経済的・精神的リスクをゼロにし、日常へスムーズに戻る 自立電源でインフラ復旧を待たずに地域住民も同様に通常の生活へスムーズに移行。AQ地震建替保証と災害時相互支援協定で、早期生活再建を全面的に支える。

提案内容の先導性	提案内容の実現可能性	提案内容の普及可能性
・ 「耐震性×エネルギー×衛生×水」を統合。平時の快適性と有事のインフラ途絶下での在宅避難・二次感染遮断を高い次元で両立する、2050年基準のフェーズフリー住宅を先導する。	・ 強靱な構法と汎用設備により実現性が高い。さらに展開済みの「新生活様式の家」や「防災井戸」の社内運用知見をベースに、全国へ確実に供給できる体制がある。	・ 特殊部材不要の木造軸組工法のため中小工務店も即座に導入可能。全国に広がるフォレストビルダーズによる広域災害相互支援を活かし、この仕組みを業界全体へ広く普及できる。

効果検証の方法	
通常の方法	災害が発生した場合に、特別に実施する方法
専用WEBサイトでのアンケートと訪問「家守り活動」を完全連動。空気清浄の満足度、備蓄庫の実際の活用度、IoT機器の作動データを直接回収し、組織的な改善（PDCA）を回し続けて住宅性能を高める。	発災後、悉皆調査を実施。隔離空間の有効性、備蓄容量の妥当性、蓄電池による換気稼働状況を検証。「家庭内クラスター（二次感染）を何%抑制できたか」を一般住宅と比較し、本モデルの有効性を科学的に実証・報告する。